

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回地域移行・地域生活支援部会			
(2) 開催日時	平成28年7月14日(木) 13:30~15:30			
(3) 開催場所	大田区役所 HK-203会議室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：青山 明子）			
	白井 絵里子	志村 陽子	鶴田 雅英	福田 功志
	岡本 洋	齋藤 信子	林 達彦	山根 聖子
	山田 悠平	伊藤 朋春	田中 庸介	岡田 あい子
	井岡 幸子	山田 紗梨	藤牧 裕佳子	川島 浩子
	区職員：金子 江理子（健康医療政策課）			
	関係者：平林 直樹（障がい者総合サポートセンター居住支援部門） 石毛 哲洋（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）			
事務局：酒井 敏彦、井村 陽介、岩下 祐輔（障害福祉課） 江波戸 宏、星 美保（障がい者総合サポートセンター）				
(5) 内容・要旨	<p>1 報告・連絡事項</p> <p>(1) 司会の確認</p> <p>(2) 出欠席の確認</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>(4) 運営会議、全体討議について</p> <p>(5) ご意見カードについて</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 地域移行のための相談支援体制について</p> <p>①制度や取組の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これですべて網羅されているわけではない。精神科病院に入院している本人が退院するときに、どんな人たち（支援者）が関わっているのかを知ってほしい。</li> <li>・本人が「退院したい!」と思って、伝えたが、医者から「無理じゃない」と言われた。納得がいかない場合、東京都精神医療審査会へ申し出ることにより退院できる場合もある。</li> <li>・入院しているPSW等から連絡が入り、居住地域の担当保健師が支援会議に参加することになる。</li> <li>・支援会議には計画相談支援が入る場合もある。</li> <li>・退院に際しては本人を中心に退院後の制度の説明や本人へのアセスメントを行い、退院が可能となるまで力をつけていく。</li> <li>・保健師と生活支援センターの役割の違いはさほどない。同じように出向っていく。</li> <li>・児童相談所が関わる場合などには保健師が中心となる。</li> <li>・入院先の病院が精神障害者地域移行促進事業の協力病院の場合、退院された方々が中心となったケアサポートグループがあり、仲間同士話せる場であるので、本人に退院がいいなあと思ってもらいやすい。また、協力病院には専任の退院に向けたコーディネーターがいる。</li> </ul>			

・入院が長期化しないように7日以内に退院後のスケジュールや退院後の生活支援の計画を組んでいく。

②模擬ケア会議（ロールプレイ）

③意見交換・質疑応答・まとめ

A班

・知的の子や重度の子の場合はどうだろうと考えた。やはり地域から施設等に出てしまうと戻れない場合がほとんどだと思う。

・障がい者総合サポートセンターにショートステイができるので期待している。

B班

・病院にコーディネーターがいない場合→病院のP S Wが中心になる。

・遠くても地域の保健師は来るのか→遠くても行く。訪問看護ステーションからも行く。また、病院内でケア会議の際は医者も同席する。本人抜きで行う場合もある。今回は模擬ということもあり一例。

・グループホームやショートステイありきなのか→生活保護の場合はアパートを貸してくれるかは地域にもよるし、本人の状況にもよる。ケア会議に生活保護担当ケースワーカーが出席する場合もある。

・グループホームやショートステイも嫌で、本人がどうしても退院したいと言った場合どうなるのか。→時間をかけてでも説得にはなる。経済的に余裕がある場合は本人と相談にはなる。

C班

・実際のところ、このように会議はスムーズに進行するのか→病院のP S Wが声かけをする。

・今回、本人の意思があまり聞けなかったのは残念。本人の意思をもっと聞き出す場合はどうすればよいのか。

D班

・これはいい仕組み。他障がいにもできたらいいと思う。

・本人が何を求めているのか。本人のケースにもよるが聞き出すことが必要。

・会議には医者が参加しているのか。→病院内の会議には同席する。

・精神障がいと他障がいでは違う。他障がいでもできるといい。

(2) 全体討議会で今年度取り上げたいテーマについて

・8月19日（金）全体討議会開催。のみ委員でも参加可能。

・話し合う内容については運営会議で決めていく。この部会としてはアンケート結果より特に絞るとしたら。→差別解消法、合理的配慮について

・1回目ということもあり、まずは、どう考えているか出し合う場でもよいのでは。

(3) その他

・精神障がいの方の地域移行の在り方を事例に、他障がいにもこの支援を使うとしたらどのように使っていくかを考えると広がるのではないかと。

・様々な障がいをもっている方がいて、できないとあきらめずに、「どうしたらできるのか？」を考えていきたい。他障がいではどうできるのか考える機会になった。